

見る・聞く・触れる 多彩な教育プログラム

過去から現在へ。「表現」という人間の最も豊かな成果を学ぶ、表現文化学科の授業の一部をご紹介します。

●日本文学コース



柳亭種彦『修紫田舎源氏』（歌川国貞・画）

文化の歴史の中＝作品中に、日本人の美意識

や思想の在り方を見出す

●古典文学研究（川崎）

絵巻物を、書「物」として読み解く授業です。絵巻物は持ち出せないの、絵巻物全集などをコピーします。ホンモノを読む感覚に近づくため、ここで一工夫。画面を切り取り、左右の端を糊で継ぎ、画面が内になるよう巻く。これで、擬似巻物の出来上がり。必要なだけ画面を開き、巻き、また開き、作品を読み解いていきます。

自ら学び、
追究する力



本物を知る
原点から考える

近現代小説の始まり・坪内逍遙「小説神髓」

●日本文学入門2（松尾）

明治期の小説誕生について説明しています。西欧化政策下の明治期に、戯作が改良されて、小説が立ち上がってきます。坪内逍遙の「小説神髓」は、代表的な初期の文学改良論です。高校では概説で終わるものですが、大学の授業では、初版本の本文を用いて「緒言」だけですが、解説しています。発表当時の字体を通して、文意を解説するのは難しくも、楽しいものです。すんなり読めないものだから、大学の専門課程で読む価値がある、そういうことを分かってもらいます。



●古典文学講義3（丸井）

近世小説の流れを概観しながら、各ジャンルの主要作品を読んでいきます。商業出版が確立し、読者層が格段に増加した近世は、小説の世界が大きく花開いた時代です。そうした世界を楽しみつつ、語彙・文体・素材など様々な要素を分析し、作品が生み出された現場がどのようなものだったのかを考えます。

教員を目指す人に 表現文化学科では、中学・高校の国語科教員の取得が可能です。国語科教員を目指す人には、集中して小説・詩歌・評論の読解力を身につける、「作品読解ゼミナール」があります。

●日本語コース

私たちの思考の根源・言葉の秘密を知る

●表現文化ゼミナールⅤ（中崎）

現代日本語の主に文法に関わる問題について、テーマを定め、考察し、発表します。例えば「ちょっとした」という意味で使われる「プチ」と「ミニ」という言葉があります。「プチ寂しい」は言っても、「ミニ寂しい」とは言いにくいのではないのでしょうか。では「プチ／ミニ楽しい」はどうでしょうか。またメールやLINEなどでこのような言葉が実際に使われているのでしょうか。メールなどで実際に使用される言葉を「見て」「聞いて」、「プチ」と「ミニ」の共通点や相違点は何だろうかといったことを明らかにして、なぜこういったことが起こるのかを考えていく授業です。



ゼミナールの風景

調査・思考・発表
社会人にも
生きるゼミ

●日本語研究Ⅰ（岩田）

「しんぶん」の二つの「ん」の発音は同じでしょうか？ 言いよどむ時に使う「あの一」と「え一」とは同じ場面で使えるでしょうか？ この授業では、身近にみられる言語現象を取り上げ、観察し、分析していくことで、日本語学研究の基礎を学びます。私たちは無意識に「ことば」を使いますが、決して無秩序に無規則に使えるわけではありません。私たちが「ことば」を使う時、頭の中はどのような計算がなされているのでしょうか。当たり前にも身の回りにある「ことば」を深く追求していく楽しさを実感してもらいたいと思っています。

●表現創造コース

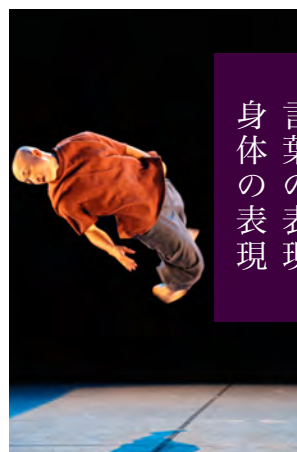
「私」から「あなた」へ・表現という「力」を引き出す。

●表現創造講義（松本）

わたくしたち一人ひとりがそれぞれの時間を生きています。各々の数だけ時間というものはある。ですから誰かの生、たとえば自分の生を物語る場合でも、その中には他の誰かの時間、別の時間が含まれています。その意味で物語は複数の時間を保存する装置であり、そして保存状態によっては、そこからさらに別の物語を育む時間の苗床でもあります。わたくしの授業では、物語の中に複雑に折り畳まれた複数の時間をていねいに掘げ、そこから物語の種を一つ一つ見つける作業を行なっています。みなさん一人ひとりの時間を潜めた別の物語の成長を願って。

●表現創造基礎4・6（岡本）

自分のからだがどんな形をして、どんなときに、どんな風に動いているのか、そして、どんな風に、何を感じているのか、意識したことがありますか。注意深くのぞいてみると、からだはわたしの器でありながら、同時に、無意識なわたしをも含めた丸ごとのわたしそのものであることがわかります。からだを動かしながら、自分自身や仲間をみつめ直し、再発見し、自分らしく「ある」ことを模索していきます。



身体表現ゼミの卒業制作発表会は白熱